

公立大学法人奈良県立医科大学

平成24年度及び中期目標期間の業務の実績に関する評価結果

平成25年8月

奈良県地方独立行政法人評価委員会

目次

全体評価	2
項目別評価	
Ⅰ 大学の教育・研究・診療等の質の向上に関する目標を達成するための措置	
1 教育に関する目標を達成するための措置	4
2 研究に関する目標を達成するための措置	8
3 診療に関する目標を達成するための措置	10
4 社会との連携、国際交流等に関する目標を達成するための措置	13
Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置	13
Ⅲ 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置	15
Ⅳ 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置	18
Ⅴ 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置	19
Ⅵ 安全管理等に関する目標を達成するための措置	19

奈良県地方独立行政法人評価委員会は、地方独立行政法人法第28条及び第30条の規定により、公立大学法人奈良県立医科大学の業務実績について以下のとおり評価を行った。

【平成24年度評価】

「全体評価」

全体評価は、項目別評価及び法人の自己評価を踏まえつつ、法人の中期計画の進捗状況全体について記述式により評価を行う。

「項目別評価」

業務実績報告書の検証を踏まえ、項目別に進捗状況・成果を下記の5段階で評定する。

- V 中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進行状況にある
- IV 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる
- III 中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる
- II 中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている
- I 中期目標・中期計画の達成のためには重大な改善事項がある

【中期目標期間評価】

「全体評価」

全体評価は、項目別評価及び法人の自己評価を踏まえつつ、法人の中期目標の達成状況全体について記述式により評価を行う。

「項目別評価」

業務実績報告書の検証を踏まえ、項目別に進捗状況・成果を下記の5段階で評定する。

- V 中期目標の達成状況が極めて良好である
(中期目標を上回る実績・成果をあげており、かつ、その実績・成果が卓越した水準にある)
- IV 中期目標の達成状況が良好である (中期目標を上回る実績・成果をあげている)
- III 中期目標の達成状況がおおむね良好である (中期目標に記載された事項をほぼ100%実施している)
- II 中期目標の達成状況がやや不十分である (中期目標をやや下回る実績・成果となっている)
- I 中期目標の達成状況が不十分である
(中期目標を下回る実績・成果となっており、かつ重大な改善事項がある)

全体評価

平成24年度は、中期目標期間の最終年度であることから、平成24年度及び中期目標期間全体における業務の実績について評価を行った。

平成24年度評価

平成24年度の業務実績の中で、注目される取組として、医学科入学試験制度の大幅な変更、研究医養成コースの開設、漢方医学の教育研究推進、診療助教制度の創設と診療助教の各診療科への配置、労働環境改善のための学内保育園の充実などがあげられる。

これら取組を含めて、平成24年度のすべての取組について評価の結果、中期目標で掲げる9項目（教育、研究、診療、社会連携・国際交流、業務運営、財務、自己点検・評価、施設設備、安全管理）について、7項目で「順調に進んでいる」、2項目で「おおむね順調に進んでいる」と評定し、年度計画で定めた事業をおおむね実施していると判断した。

以上のことを踏まえ、公立大学法人奈良県立医科大学の平成24年度の業務実績については、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体として「順調に進んでいる」と評価する。

中期目標期間評価

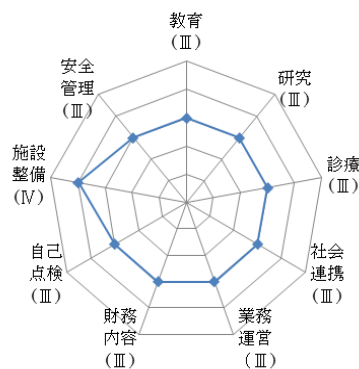
中期目標にかかる業務実績については、注目される取組として、医学科入学定員への「地域枠」「緊急医師確保枠」の設定、大学院医学研究科修士課程・大学院看護学研究科修士課程の設置、産学官連携推進センター・女性研究者支援センターの設置、総合相談窓口の開設やアメニティ整備による患者満足度の向上、臨床研修センターの整備、理事長のリーダーシップによる機動的で責任ある運営体制の構築、附属病院における7対1看護体制の導入や平均在院日数の短縮等による病院収入の確保、（仮称）中央手術棟の第1期竣工に向けた取組などがあげられる。

これら取組を含めて、中期目標に係るすべての取組について評価の結果、中期目標で掲げる9項目（教育、研究、診療、社会連携・国際交流、業務運営、財務、自己点検・評価、施設設備、安全管理）について、中期目標の達成状況は7項目で「良好である」、2項目で「おおむね良好である」と評定し、中期計画で定めた事業をおおむね実施していると判断した。

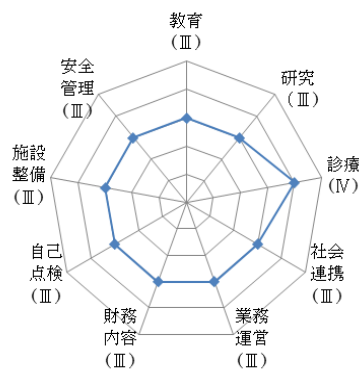
過去6年間の各年度の評定結果を踏まえ、公立大学法人奈良県立医科大学の中期計画で定めた事業は、おおむね実施しており、全体として「良好である」と評価する。

（参考）6年間の年度評価

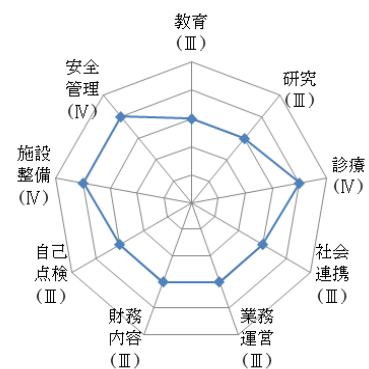
平成19年度

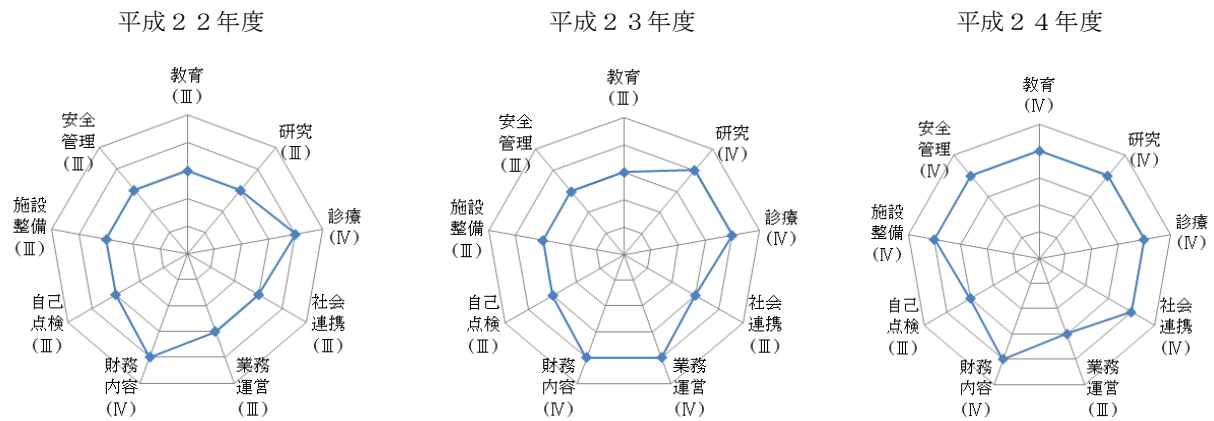


平成20年度



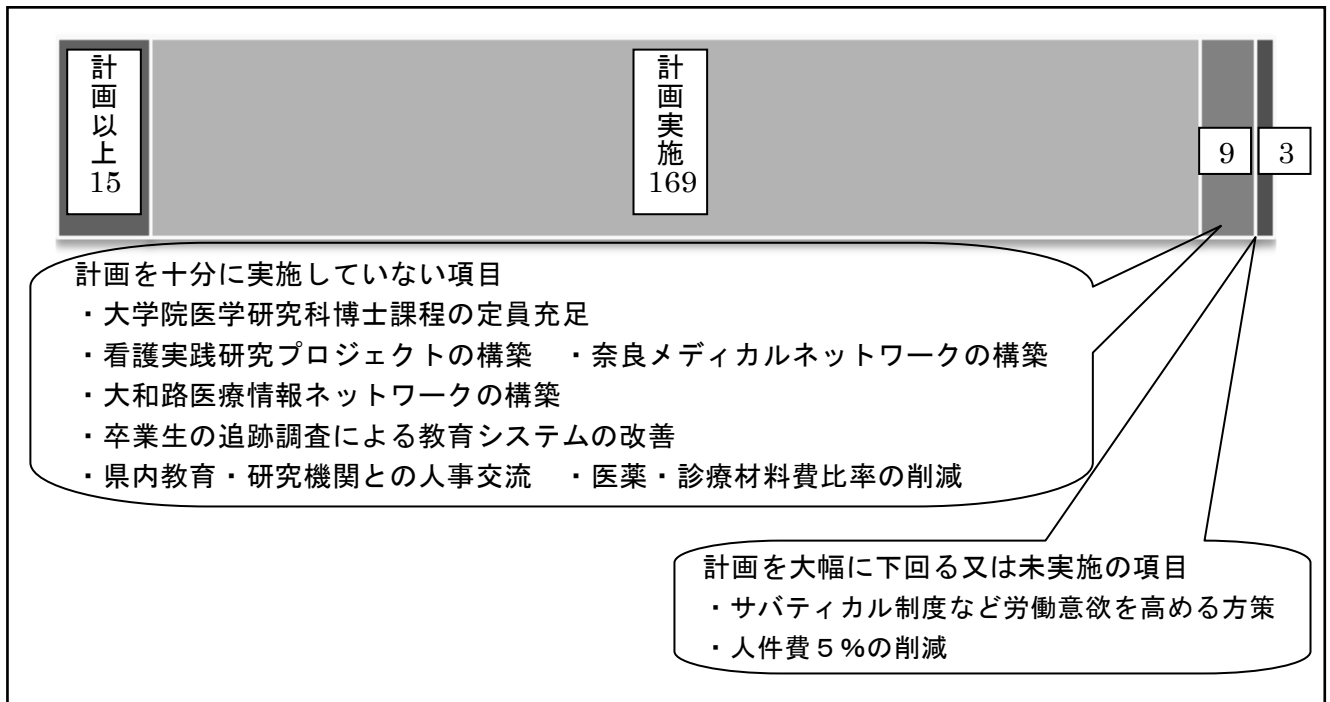
平成21年度





中期計画の達成状況

中期計画の達成状況は、計画以上実施している項目が15項目、計画をおおむね実施している項目が169項目、計画を十分に実施していない項目が9項目、計画を大幅に下回っている項目又は実施していない項目は3項目となっている。



今後に期待すること

これまでの取組として、第1期中期目標期間（平成19年度～平成24年度）においては、中期計画に定めた事業について、多くは計画どおりに、あるいは計画以上に取組まれており、中期目標は、おおむね達成できていると判断する一方で、十分に実施できていない取組も一部で見受けられた。

第2期中期目標期間（平成25年度～平成30年度）においては、県は法人に教育・研究・診療等の取組を通じて、県内医療の充実や研究成果の地域への還元など、地域貢献に一層の取組を期待している。また教育・研究部門の移転検討が計画策定段階から実施段階に移るなど、法人にとっても非常に重要な時期を迎える。

法人は、中期目標を達成するため作成した中期計画について、時代の変化による改廃も含め、課題として残されたままとならないよう、引き続き計画的かつ積極的に取り組むことを期待する。

項目別評価

I 大学の教育・研究・診療等の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県の中核病院であるとの自覚を熟成させ、質の高い医師・看護職者を養成し、地域医療の質の向上に寄与する。 ・ 地域枠の設定等により、県の医療に貢献できる優秀な人材を確保する。 ・ 大学院課程では、医学・看護学をはじめ広く医療に関連した分野にも門戸を開き、社会人はもとより幅広く人材を求め、基礎的研究や応用的研究を推進できる環境を構築する。
年度評定	<p style="text-align: center;">IV 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる</p>

【注目される取組(平成24年度)】

- 優秀な学生を確保するため、医学科入学試験制度を大幅に変更、後期日程の定員を53名にするとともに、全ての試験区分で学科試験を実施。また、一試験時間で数学、英語、理科の試験問題を解答する「トリアージによる奈良医大入試方式」を導入。医学科志願者数が大幅に増加している。
- 平成24年度に早稲田大学、関西医科大学との連携による公立大学唯一の「研究医養成コース」を開設し、学外から2名を選抜し教育を実施し、平成25年度生として学内生1名を選抜している。
- 学生による教員の授業評価について、平成24年度は、医学科の一般教育を新たに加え、一般・基礎・臨床教育と看護学科の全授業で学生による教員の授業評価を実施するとともに、平成23年度の授業評価結果について各教員にフィードバックを行い、授業改善の対応状況の調査を実施している。
 - 〔1. 学生による授業評価の対象教員数〕
- 大学院医学研究科の修士課程において、平成25年度の募集定員5名を上まわる7名の入学者を決定している。
 - 〔2. 大学院医学研究科入学者数〕
- 研究指導教員及び研究指導補助教員について、2回の募集を行い、大学院医学研究科博士課程・修士課程を合わせ、研究指導教員18名、研究指導補助教員9名を確保している。
 - 〔3. 研究指導教員及び研究指導補助教員の採用状況〕
 - 〔4. 研究指導教員及び研究指導補助教員の状況（現員数）〕
- 優秀な人材を確保するため、8月にオープンキャンパスを開催し、医学科約500名、看護学科約400名が参加している。また、高校生とその保護者を対象とした「進学EXP02012in KANSAI」や予備校等主催の進学説明会などに参加し、積極的に大学のPRを実施している。
 - 〔5. オープンキャンパス参加者数〕
- 平成22年度に実施した学生生活実態調査の結果に基づき、学生利用施設の改修・学生の自主的社会的活動への助成等を実施している。

中期評定	<p style="text-align: center;">IV 中期目標の達成状況が良好である</p>
------	--

【注目される取組（中期目標期間）】

- 奈良県の医療と広く人類の福祉に貢献できる人材を確保するため、平成20年度入試から医学科に「地域枠」及び「緊急医師確保枠」を、看護学科に「地域枠」を設定。また、当該中期目標期間中に学生定員を医学科18名、看護学科5名拡充している。
 - 〔9. 医学科入学定員数〕
 - 〔10. 看護学科入学定員数〕
 - 〔11. 合格者に占める県内出身者の割合〕
 - 〔12. 医学科卒業生の就職等状況〕
 - 〔13. 看護学科卒業生の就職等状況〕

- 質の高い医師・看護職者を育成するため、平成20年度に大学院医学研究科修士課程を、平成24年度に大学院看護学研究科修士課程を開設している。また、研究指導教員、研究指導補助教員の採用に努め、質の高い研究指導体制の提供に取り組んでいる。
 - 〔2. 大学院医学研究科入学者数〕
 - 〔3. 研究指導教員及び研究指導補助教員の採用状況〕
 - 〔4. 研究指導教員及び研究指導補助教員の状況（現員数）〕

- 6年一貫教育プログラム「MDプログラム奈良2006」の基に医学・医療に関する基本的な知識・技術を統合的に習得させ、OSCEとアドバンストOSCEでその検証を行うなど良質な医師の育成に努めている。

- 教員の授業改善に向けて取り組みを進めるため、医学科の一般、基礎、臨床教育及び看護学科の全科目で教員の授業評価を実施し、評価結果を各教員にフィードバックしている。
 - 〔1. 学生による授業評価の対象教員数〕

- 県内の優秀な人材を多く確保するため、高大連携、オープンキャンパスの開催、模擬授業を実施するとともに、文部科学省採択事業や女性研究者支援センター主催として、中高生を対象とした講座を実施している。
 - 〔5. オープンキャンパス参加者数〕

- 医学・医療に関する基本的知識・技術を修得するため、医学科第4学年に於いて、平成19年度から基礎医学と臨床医学、社会医学を統合した臨床統合型講義を実施している。

- コミュニケーション能力向上のため、平成21年度に国際交流センターを設置し、オックスフォード大学やルール大学・チェンマイ大学などの国外大学との連携による研修機会の充実を図っている。
 - 〔6. 海外大学との連携協定締結実績〕

- 教員の教育活動を支援するため、平成19年度にT A (*1)・R A (*2)に関する規程を整備。R A の雇用人数を増員している。
 - 〔7. R A雇用人数〕

- 図書館機能向上のため、電子ジャーナルや電子ブック、専門図書を拡充するとともに、施設設備の充実化を図っている。また、ホームページ上に、機関リポジトリ「G I N M U」を設置し、コンテンツ収集に努めている。
 - 〔8. 学術リポジトリ登録件数〕

- 学生修学環境改善のため、「学生生活実態調査」を実施し、その結果を踏まえ、学内施設の改修、備品の更新を実施している。

- NARA W I L L（学生災害ボランティアグループ）による「東日本大震災（H23～）」や「紀伊半島大水害（H24）」などのボランティア活動に対する支援を実施している。

項目別評価

○平成24年度に早稲田大学、関西医科大学との連携による公立大学唯一の「研究医養成コース」を開設し、学外から2名を選抜し教育を実施、平成25年度生として学内生1名を選抜している。

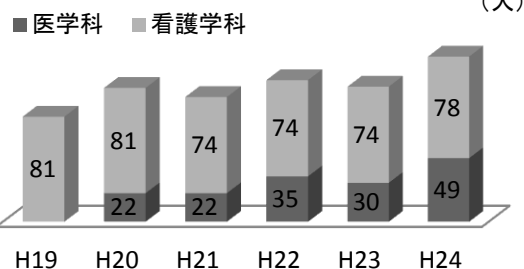
(*1)TA(Teaching Assistant) : 大学院学生が学部教育の補助を行う制度

(*2)RA(Research Assistant) : 大学院学生を研究補助者として参画させる制度

【未達成又は達成が不十分な課題】

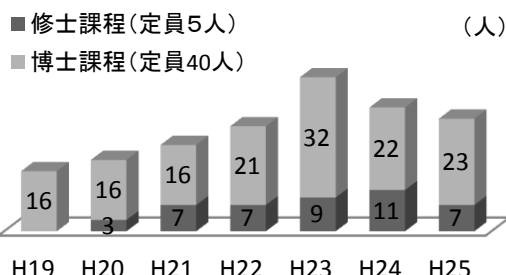
- 大学院医学研究科博士課程については、修士課程から進学の場合の入学料免除、医学研究科の早期修了制度、社会人の長期履修制度、附属病院医員の大学院入学、大学院生の附属病院での非常勤勤務等さまざまな制度の充実や研究指導教員等の募集による指導体制の強化に努めているものの、定員40名の充足には至っていない。
〔2. 大学院医学研究科入学者数の推移〕
- 看護実践研究プロジェクトを構築し、看護実践研究センターの設立に向けた取り組みを進めるとしていたが、看護学科・附属病院看護部連携ワーキングの検討により、平成26年度に設置することとなっており、中期目標期間中の設置に至っていない。

1. 学生による授業評価の対象教員数 (延べ人数)



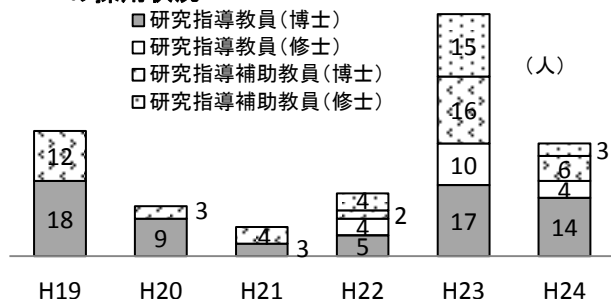
(注) 対象教員数は延べ人数であり、ひとりの教員が複数の授業科目を担当している場合は複数でカウントしている。なお、看護学科は平成19~22年度まで教員全員が授業評価の対象となっている。

2. 大学院医学研究科入学者数



※(例)H25の欄はH24年度試験実施、H25年度入学をいう。

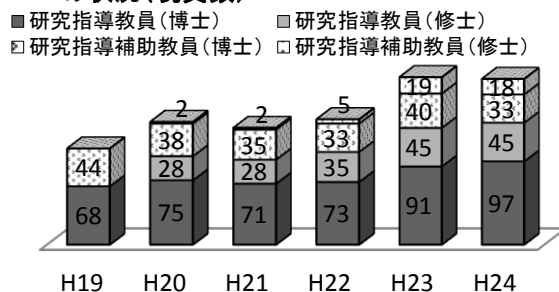
3. 研究指導教員及び研究指導補助教員の採用状況



(注1) 修士課程は平成20年度から設置しており、設置当初の教員は文部科学省の認定により選任している。設置の2年後(平成22年度)以降でないと法人で採用はできない。

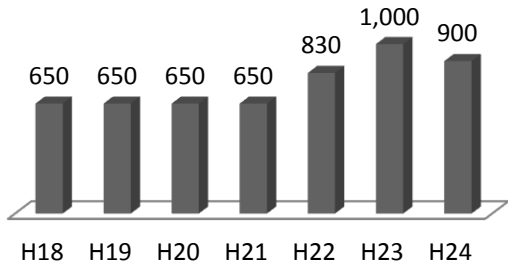
(注2) 教授(採用手続きを要しない)は除く。

4. 研究指導教員及び研究指導補助教員の状況(現員数)



(注) 修士課程の設置当初に文部科学省の認定により選任した教員及び教授(採用手続きを要しない)を含む。

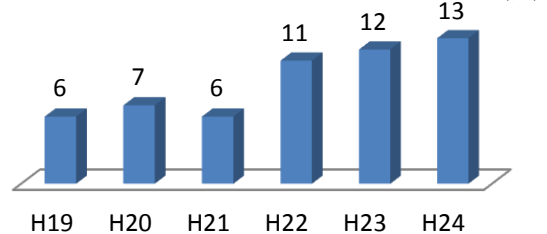
5. オープンキャンパス参加者数 (人)



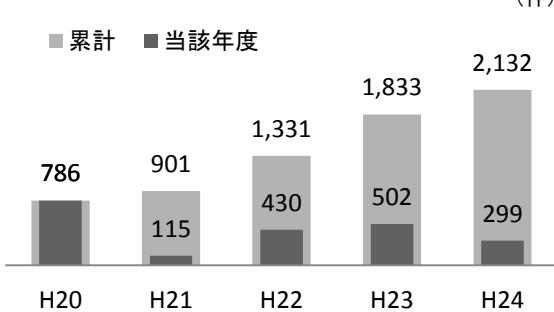
6. 海外大学との連携協定締結実績

年月	大学名(国名)
平成8年8月	チェンマイ大学(タイ王国)
平成16年12月	福建医科大学(中国)
平成20年4月	オックスフォード大学(イギリス)
平成22年4月	ルール大学(ドイツ)

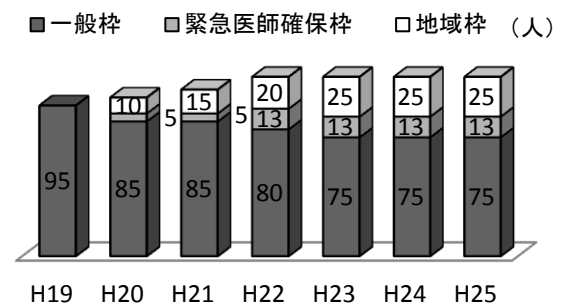
7. RA雇用人数 (人)



8. 学術リポジトリ登録件数 (件)

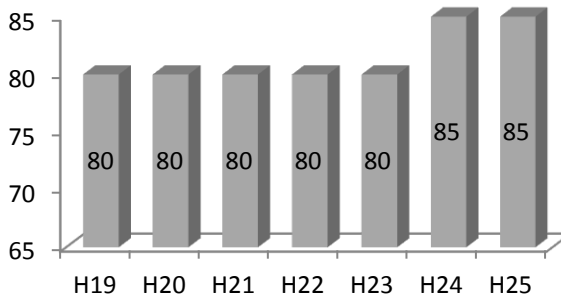


9. 医学科入学定員数 (人)



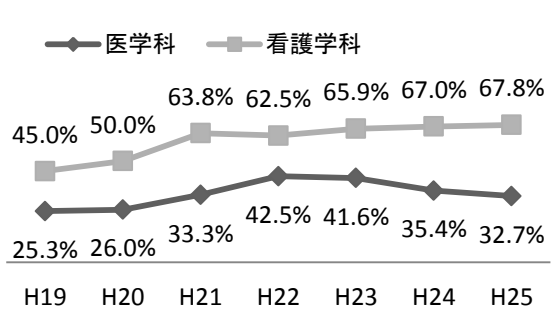
※(例)H25の欄はH24年度試験実施、H25年度入学をいう。

10. 看護学科入学定員数 (人)



※(例)H25の欄はH24年度試験実施、H25年度入学をいう。

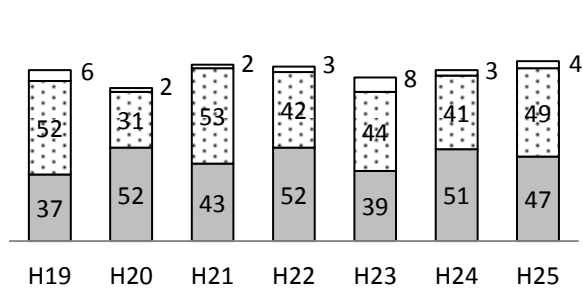
11. 合格者に占める県内出身者の割合



※(例)H25の欄はH24年度試験実施、H25年度入学をいう。

12. 医学科卒業生の就職等状況 (人)

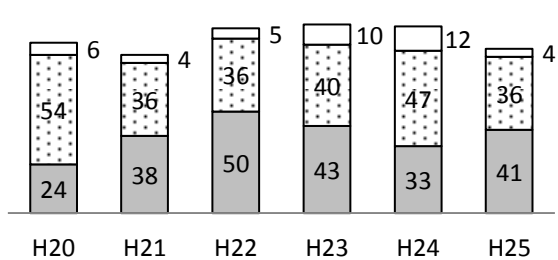
□ 卒後臨床研修(県内) □ 卒後臨床研修(県外) □ その他



※(例)H25の欄はH24年度卒業、H25年度就職をいう。

13. 看護学科卒業生の就職等状況 (人)

□ その他
□ 看護師・保健師・助産師(県外)
□ 看護師・保健師・助産師(県内)



※(例)H25の欄はH24年度卒業、H25年度就職をいう。

項目別評価

I 大学の教育・研究・診療等の質の向上に関する目標を達成するための措置

2 研究に関する目標を達成するための措置

目標	<ul style="list-style-type: none">・独創性豊かでレベルの高い研究に取り組み、「ナンバーワン」分野を持った特色ある大学を目指す。・共同研究、産学官連携を積極的に推進する。
年度評定	IV 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

【注目される取組(平成24年度)】

- 慶應義塾大学漢方医学センター副センター長を客員教授に招聘するとともに、漢方薬シンポジウムを奈良県と共催で実施している。学内研究者等への漢方に対する理解促進を図るため「大和漢方医学薬学講演会」を開催している。
- 産学官連携を推進するため、産学官連携推進センターに特任教授を配置し、研究会等の開催や民間企業等との交流の場に積極的に参加している。
- 臨床研究における県内関連病院等との連携のため、医大、県立奈良病院、県立三室病院、市立奈良病院、大和橿原病院間で急性心筋梗塞及びカテーテル症例の症例登録を行い、共通のデータベースを構築している。
- 共同研究推進のため、シーズ集を改訂し、研究シーズやニーズをシンポジウム等で積極的に発信するなど、新規共同研究契約件数の増加に努めている。
〔1. 新規共同研究契約件数〕
- 競争的外部資金の獲得に向けて、文部科学省科学研究費補助金等の申請書作成支援を行うとともに、補助金の応募実績等に応じた研究費の加算配分等の実施などに取り組んでいる。

中期評定	IV 中期目標の達成状況が良好である
------	--------------------

【注目される取組(中期目標期間)】

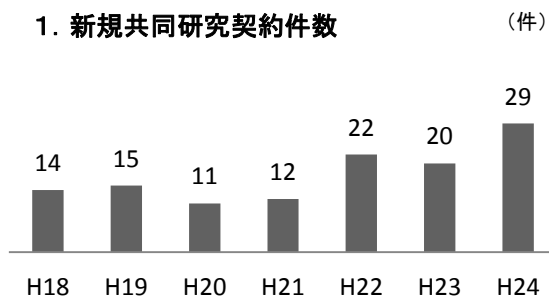
- 平成22年度に女性研究者支援センターを設置するとともに、文部科学省の女性研究者研究活動支援事業の採択を受けて特任教授を配置し、女性研究者の支援策を充実している。また、平成23年度に「女性研究者学術奨励賞」を創設し、学内研究者の研究意欲の醸成に努めている。
- 共同研究推進のため、公的機関との共同研究経費の一部を助成する「共同研究事業」を継続実施するとともに、研究シーズやニーズをホームページや冊子等への掲載、「先端科学研究機構誌」の発刊、企業等へ情報発信など、新規共同研究契約件数の増加に努めている。
〔1. 新規共同研究契約件数〕
- 競争的外部資金獲得に向けた取組を進めるため、課内室であった研究推進室を課として組織変更を行い、大学知的財産アドバイザーの受け入れ、利益相反管理規定に基づく、関連諸規程を制定している。また、平成23年度に産学官連携推進センターを設置し、平成23年度に特任助手、平成24年度に特任教授を配置するとともに、産学官連携推進ポリシー、知的財産ポリシー、利益相反ポリシーを制定している。
- 寄附講座等を積極的に誘致するとともに専任教授等を配置し、特化した先端研究を実施している。
〔3. 寄附講座等設置実績〕

- 講座研究費及び教員研究費の配分方法について、平成22年度から科学研究費補助金や大学院生の受入状況による傾斜配分を実施するなど、研究意欲を高め、研究資金の獲得に努めている。
- 若手研究者の留学支援制度充実のため、平成21年度から厳樞学術奨励賞（同窓会による海外留学助成金）に推薦を行い、受賞者を輩出するとともに、平成23年度から若手研究者国際学会発表助成事業制度を設置し、留学や海外学術発表を奨励している。
- 同志社女子大学や早稲田大学、奈良先端科学技術大学院大学と学術連携協定を締結し、シンポジウムの共催やワークショップ等を実施している。
- 平成21年度に国際交流センターを設置し、オックスフォード大学、ルール大学、チェンマイ大学及び福建医科大学との学術交流協定を締結・更新し、連携セミナーを開催するなど交流を実施している。
- 臨床治験、医師主導型臨床研究推進のため、平成22年4月に治験センターを設置し、毎年治験コーディネーターを増員するとともに、治験経費受入に係る出来高制を導入し、平成24年度の新規治験件数は、平成18年度比約2.4倍となっている。
〔2. 新規治験件数〕

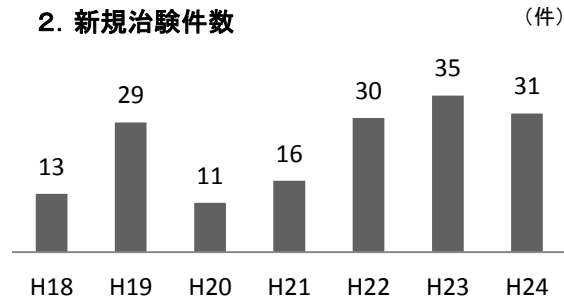
【未達成又は達成が不十分な課題】

- 独創的研究テーマをとりあげるとともに、研究支援システムを構築し、国際的研究を推進するとしていたが、十分な実施には至っていない。
- 附属病院を中心とした医療情報連携ネットワーク（地域医療連携システム）については、運用を開始しているものの、臨床応用研究推進の基盤としての奈良メディカルネットワークの構築には至っていない。

1. 新規共同研究契約件数



2. 新規治験件数



3. 寄附講座等設置実績

年 月	講座名
平成18年 4月	住居医学講座
平成21年 4月	血栓制御医学講座
平成22年 4月	血圧制御学講座
平成22年10月	地域医療学講座
平成23年 4月	人工関節・骨軟骨再生医学講座

項目別評価

I 大学の教育・研究・診療等の質の向上に関する目標を達成するための措置

3 診療に関する目標を達成するための措置

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・優れた医療人の育成と患者に信頼される良質で安全な医療の提供、特定機能病院として、高度先進的、総合的な医療の開発・提供を行う。 ・奈良県の中核病院として、地域医療機関との連携を強化する。
年度評定	<p style="text-align: center;">IV 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる</p>

【注目される取組(平成24年度)】

- 診療体制の充実のため、診療助教制度を創設し、各診療科等に診療助教を計26名配置している。
- 患者満足度向上のため、外来診察室のスライドドアの設置、新生児外来授乳室の防音工事の施工、玄関ホール・会計エリアのリニューアル工事、院内緑化等を実施している。
- 医療安全推進のため、医療安全推進室に専任の病院教授(室長)を配置し、院内安全ラウンドの実施と部署へのフィードバックを実施している。またインシデント・アクシデント報告の現状や報告の方法、分析対策の方法等を各部署で情報の共有化を図っている。
〔6. インシデント・アクシデント報告件数〕
- 地域医療総合支援センターとして、医師2名(産婦人科、麻酔科)を県立奈良病院に配置するとともに、文部科学省補助金を獲得し、へき地診療所へ医師4名を派遣している。
- 特定機能病院としての機能を果たすため、産婦人科における連携登録医制度の実施による逆紹介や退院調整等の総合周産期母子医療センター患者への対応強化に努めている。また、年々増加しているICU・CCU患者にも対応している。
〔1. ICU・CCU患者数〕
〔2. 分娩件数〕
〔3. 総合周産期母子医療センター患者数〕
- 研修医のニーズに対応したカリキュラムや臨床研修医に対する諸手当の支給、臨床研修センターの機能強化を図るなど臨床研修に専念できる環境整備を進め、研修医や医員の確保に努めている。
〔8. 研修医及び医員の状況〕

中期評定	<p style="text-align: center;">IV 中期目標の達成状況が良好である</p>
------	--

【注目される取組(中期目標期間)】

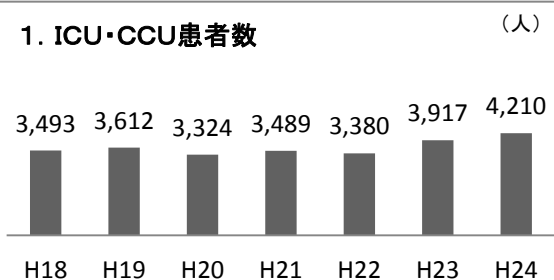
- 患者満足度向上のため、一般病棟の看護職員の7:1配置、総合相談窓口の開設や患者満足度調査の実施等による患者等の意見・ニーズの把握、外来患者用待合イスの更新、クレジットカード決済の導入、コーヒーショップの開店、病院ボランティアの受け入れ等を実施している。

- 先進医療の開発や地域医療の確保に必要となる医療人を確保するため、臨床研修医の処遇改善の実施とともに、平成19年度に臨床研修センターを整備し、研修医のニーズに応じた自由度の高い研修カリキュラムの作成、医師、看護職者、コメディカル等医療関係職員を対象とした研修の実施など、専門知識と診療能力の向上に取り組んでいる。
 - 〔8. 研修医及び医員の状況〕
 - 〔9. 認定看護師及び専門看護師の状況〕
 - 〔10. 研修（養成課程）派遣人数〕
- 病院機能や診療環境に対する評価制度の導入に係る取組として、平成22年度に病院機能評価を受審し、平成23年度にVer6.0を認定取得している。
- インシデント・アクシデント報告事例を分析・検討し、各部署に情報提供を行うとともに、院内安全ラウンドで対策を実施するなど、PDCAサイクルを継続実施しつつ、医療安全等に係る講習会を開催し、医療安全管理体制の充実を図っている。
 - 〔6. インシデント・アクシデント報告件数〕
 - 〔7. 医療安全管理研修会参加者数〕
- 特定機能病院として先進的かつ良質な医療を提供するため、治験に積極的に取り組むとともに、総合周産期母子医療センターや感染症センター・腫瘍センター等の機能充実により、患者受入体制の充実に努めている。
 - 〔1. ICU・CCU患者数〕
 - 〔2. 分娩件数〕
 - 〔3. 総合周産期母子医療センター患者数〕
 - 〔4. 手術件数〕
 - 〔5. 先進医療届出件数〕
- 地域医療機関の医療水準の向上のため、平成19年度に地域医療連携室を開設、地域医療連携懇話会を通じて様々なテーマでの情報交換等を実施し、地域医療連携パスの運用件数の増加に努めている。
 - 〔11. 地域医療連携実績〕
 - 〔12. 地域医療連携パスの運用件数〕

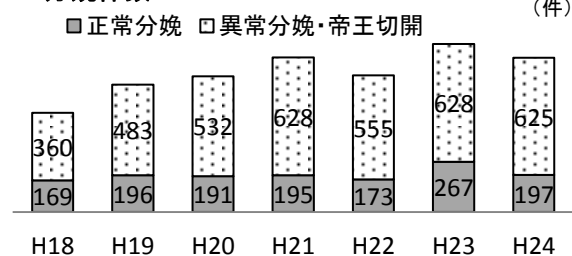
【未達成又は達成が不十分な課題】

- メディカルバースセンターの病床稼働率について、前年度実績以上に改善するため広報パンフレットを作成したものの、平成23年度の20.1%から平成24年度の15.9%と減少している。
- 疾病を臓器という枠組みを越えて病因別に捉えた統合的な医療システムの構築に向けて取り組むため、診療科の再編・センターの設置に取り組んでいるが、統合的な医療システムの構築には至っていない。
- 地域医療機関との連携を密にするため、地域医療機関からのネット予約の実施や地域医療機関との脳卒中に係る地域医療連携パスの情報交換など、積極的に取り組まれているものの、大和路医療情報ネットワークの構築については、実施に至っていない。

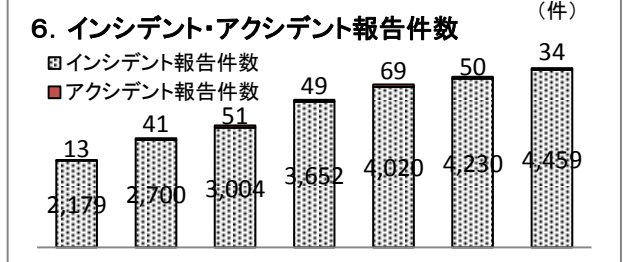
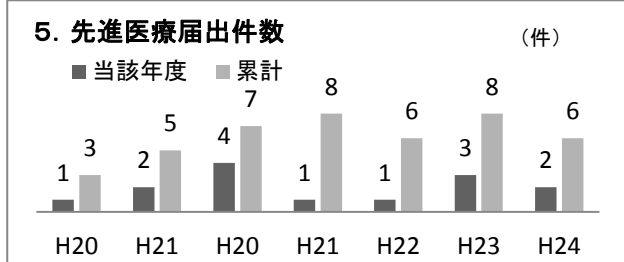
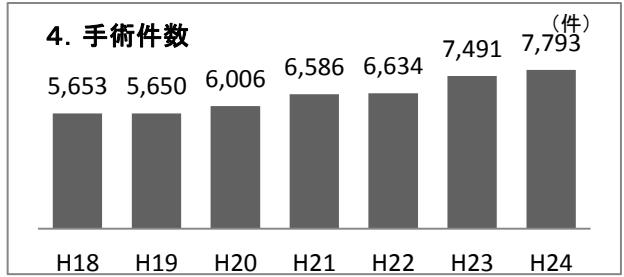
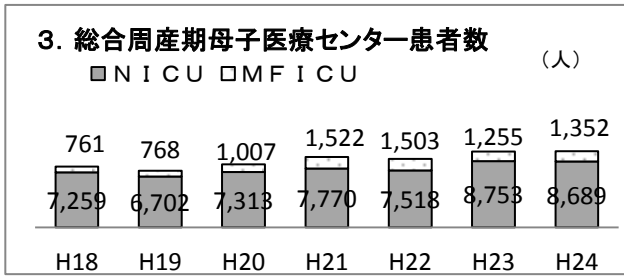
1. ICU・CCU患者数



2. 分娩件数

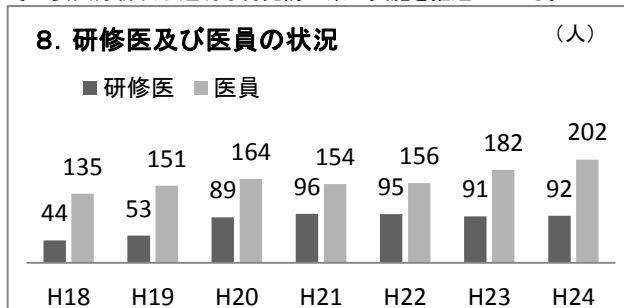
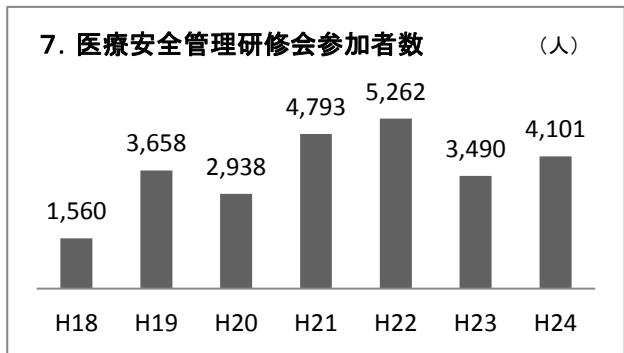


項目別評価

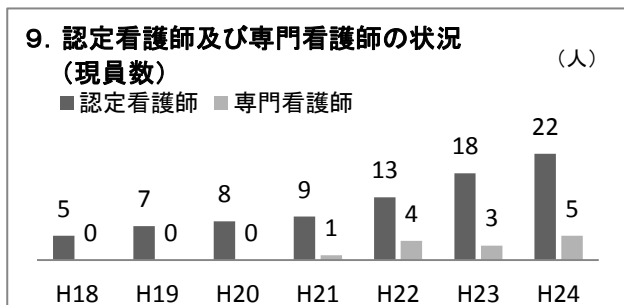


※H20: 保険適用替2件、H22: 保険適用替2件、取り下げ1件、H23: 取り下げ1件

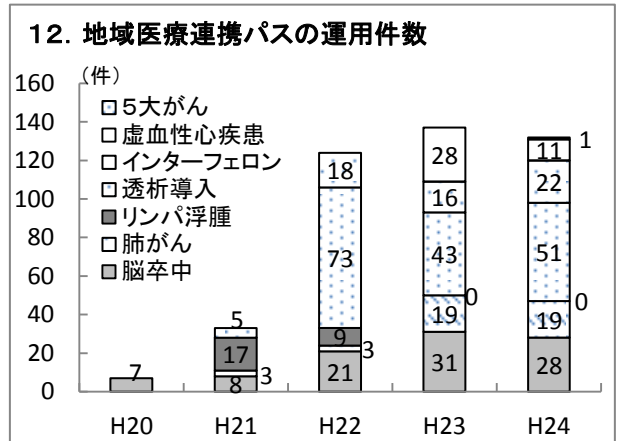
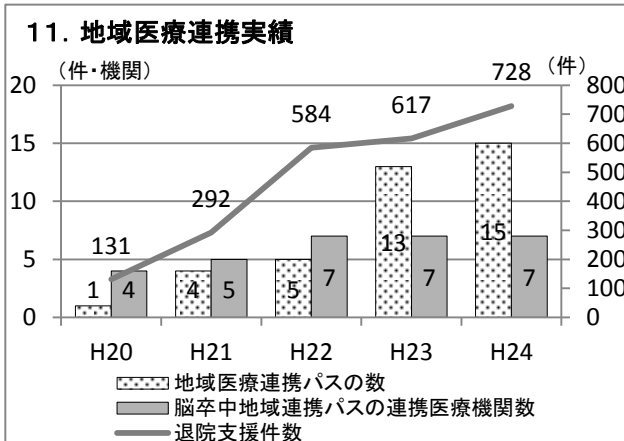
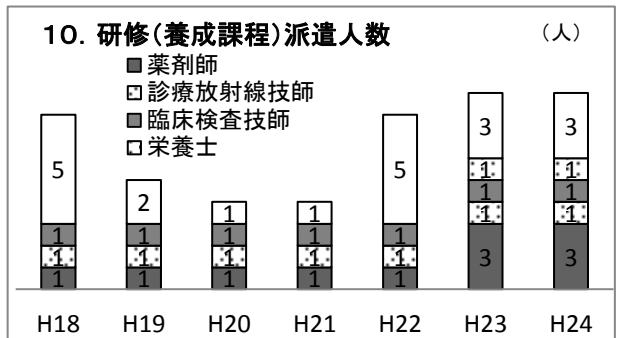
(注) 附属病院においてはリスク情報(インシデント・アクシデント)の把握に努め、またPDCAサイクルを有効に機能させることによって、その要因分析及び適切な再発防止策の実施を推進している。



※研修医: 各年度3月現在 ※ 医員: 各年度9月現在



※各年度7月現在 H22の認定看護師14名は消防庁への派遣者を含む。



I 大学の教育・研究・診療等の質の向上に関する目標を達成するための措置
 4 社会との連携、国際交流等に関する目標を達成するための措置

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域、社会への健康啓発活動や生涯教育を推進する。 ・世界を視野に入れた教育、国際的貢献を行うため、外国の大学等との交流・連携等を推進する。 	
年度評定	IV	中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる
中期評定	IV	中期目標の達成状況が良好である

【注目される取組(中期目標期間)】

- ニーズの高いテーマの公開講座や教育講座を開催し、またホームページを通して地域社会への健康啓発活動や渉外活動を行っている。
- 平成19、22、23年度に日本学術振興会の「KAKENHI」の採択を受け、中高生を対象に講座を実施、また、「女子中高校生の医・理系進路選択支援事業」を2回開催している。

【未達成又は達成が不十分な課題】

- 国外の大学等との交流・連携・協力活動推進のため、教員のサバティカル制度の長期研修制度の導入を図るとしていたが、導入には至っていない。

II 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

【1 運営体制の改善 2 組織の見直し 3 人事の適正化 4 事務等の効率化・合理化】

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・理事長のリーダーシップのもと、機動的で責任ある運営体制を構築する。 ・附属病院の業務運営や経営の健全化を一層推進させるための体制を構築する。 ・高い専門性を有した職員の育成・確保と適正で計画的な人員管理を行う。 	
年度評定	III	中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる

【注目される取組(平成24年度)】

- 学内保育園を建て替え、定員を60名まで増員するとともに、保育士を9名に増員している。
- 卒業生に対するアンケート調査を実施している。
- 全教員の任期制導入のため、新規採用の全教員に任期制を適用している。また未同意者へも任期制の同意に向けて取り組み、教員の約95%が同意している。
 - 〔1. 任期制適用者の割合〕
- 高い専門性を有した職員を育成するため、各研修機関等への職員を派遣しているほか、メディカルスタッフ研修基本計画を策定し、コメディカルの実習・研修について積極的に受け入れている。
 - 〔2. コメディカルの実習・研修の受入実績〕
- 一定の成果をあげた教員にインセンティブが働くよう再任審査方法を見直し、150名の再任審査を実施している。また、任期制未同意の教員については自己点検評価を実施している。

項目別評価

中期 評 定	Ⅲ	中期目標の達成状況がおおむね良好である
--------------	---	---------------------

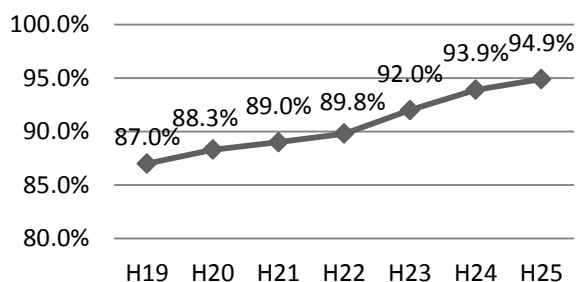
【注目される取組(中期目標期間)】

- 理事長のリーダーシップのもと機動的で責任ある運営体制を構築するため、平成20年度に病院長の専任化、副学長の設置、平成24年度から広報・渉外担当理事の任命等、理事長補佐機能の強化を行っている。また教育研究審議会、経営審議会に外部委員を登用している。
- 附属病院長を専任化し、病院経営・運営会議を新設するなど附属病院の業務運営や経営を改善する体制を整備している。
- 教員構成の多様化を推進するため、全教員の任期制導入に取り組み、導入後の新規採用の全教員に任期制を適用するとともに、導入前からの教員に対しても任期制の同意に向けて取り組み、全教員のうち約95%の教員が同意している。職員については、平成23年度から全職員に人事評価制度を導入し、人事評価の結果を賞与や昇格、人事異動に反映している。
〔1. 任期制適用者の割合〕
- 高い専門性を有した職員を育成するため、各研修機関等への職員の派遣や高度医療技術修得者養成認定制度に基づく職員の能力養成の他、メディカルスタッフ研修基本計画を作成・計画的な研修の実施している。
- 医師及び看護師が本来の業務に専念するために、臨床工学技士や薬剤師の手術部・救命救急センター・ICU等への派遣、病棟クラークの配置、一部業務の外部委託等を実施している。

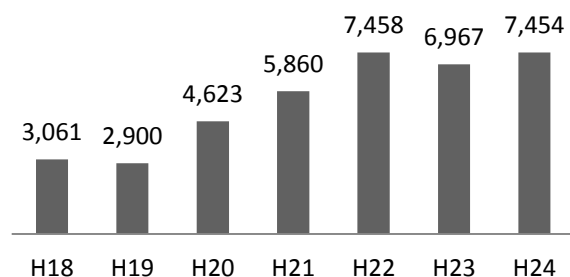
【未達成又は達成が不十分な課題】

- 教員の人事交流促進のため、県内の教育・研究機関と連携し、専門的能力を有した人材を育成し、相互に人事交流を行うとしていたが、大学連合が行う各種連携事業に参加しているものの、他大学との人事交流までは実施できていない。
- 看護学科卒業生の附属病院への就職率50%以上を目指して取組強化するとし、卒業生による就職相談会、就職支度金制度を設けたが、前年度の27.2%から43.2%の回復にとどまっている。
〔3. 看護学科卒業生の附属病院への就職率〕
- サバティカル制度等、労働意欲を高める方策の導入を図るとしていたが、導入に至っていない。

1. 任期制適用者の割合

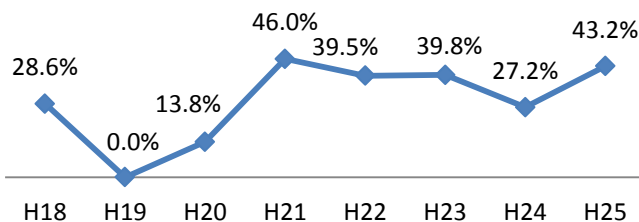


2. コメディカルの実習・研修の受入実績 (人)



※各年度4月1日現在

3. 看護学科卒業生の附属病院への就職率



※(例)H24はH23年度卒業、H24年度就職をいう。

※H19はH16.4に4年制看護学科を開設したため、看護学科の卒業生がいない。

Ⅲ 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

【1 外部研究資金その他自己収入の増加 2 経費の抑制 3 資産の運用管理の改善】

目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・競争的外部資金等の獲得や人件費、管理経費の抑制 ・附属病院の業務運営や経営の改善の一層の推進による収入の確保と経費の削減
年 度 評 定	<p>Ⅳ 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる</p>

【注目される取組(平成24年度)】

○文部科学省科学研究費補助金等の競争的外部資金獲得のため、競争的外部資金の情報を随時更新するとともに情報提供を行っている。また文部科学省科学研究費補助金や受託研究等の実績が年々増加している。

- [2. 文部科学省科学研究費補助金採択額]
- [3. 文部科学省科学研究費補助金採択件数]
- [4. 文部科学省科学研究費補助金採択率(新規のみ)]
- [5. 外部資金獲得状況]

○一定水準の病床稼働率の確保、平均在院日数の短縮による診療報酬の確保のため、地域医療連携による入院・転退院の促進として、地域連携パスの活用、手術枠の増加、稼働病床の拡大、手術室担当MEの増員、看護師確保等に取り組んでいる。

- [6. 運用病床数]
- [診療4. 手術件数]
- [7. 平均在院日数]

○診療報酬請求の適正化のため、診療報酬制度改正に伴う31件の施設基準の新規届出の実施、システムによるDPC分析、減点内容の分析とその対応等に積極的に取り組んでいる。

- [9. 附属病院収入]

○特殊検診業務や自由診療等の導入に向け、家族性腫瘍関連遺伝子検査など、新たに6件の料金設定と2件の料金改正を実施している。

項目別評価

中期 評 定	IV	中期目標の達成状況が良好である
--------------	----	-----------------

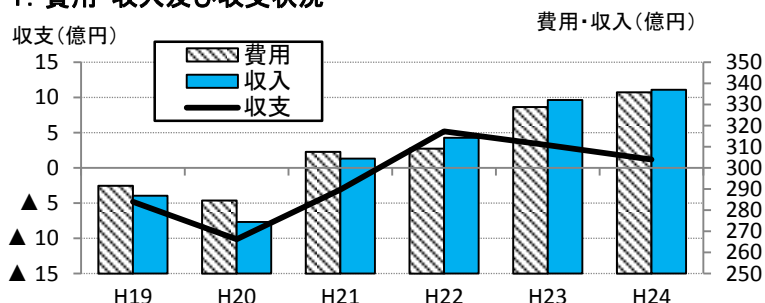
【注目される取組(中期目標期間)】

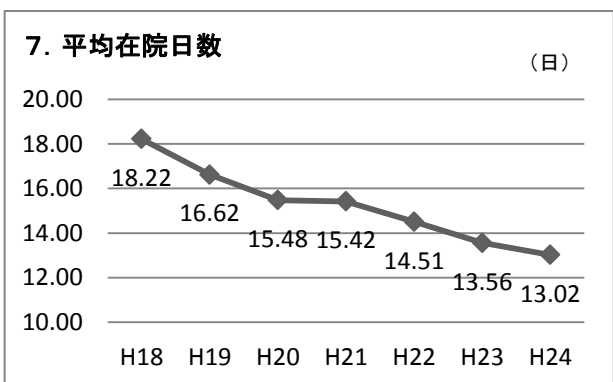
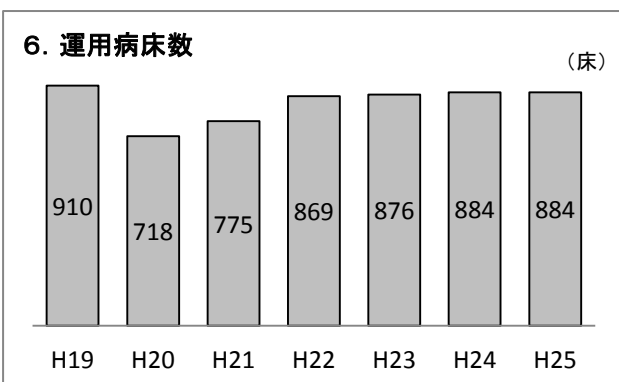
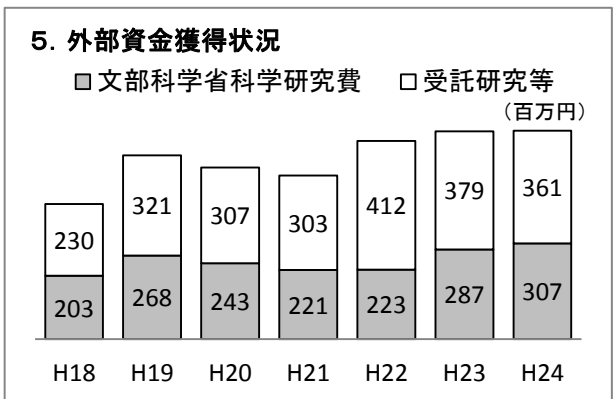
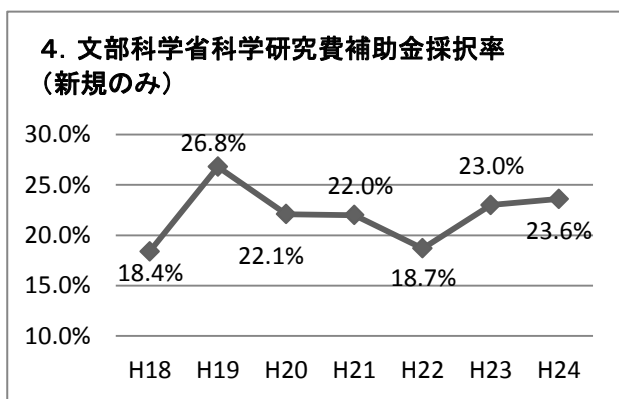
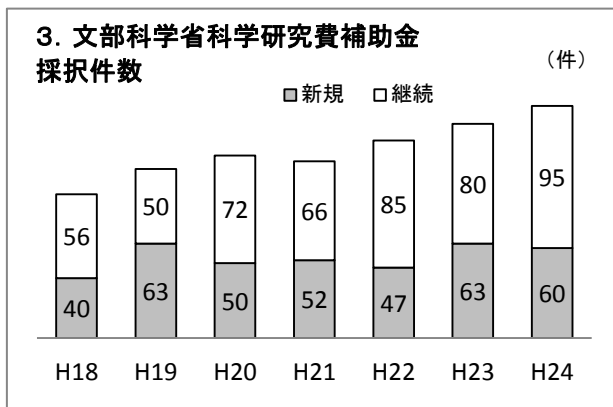
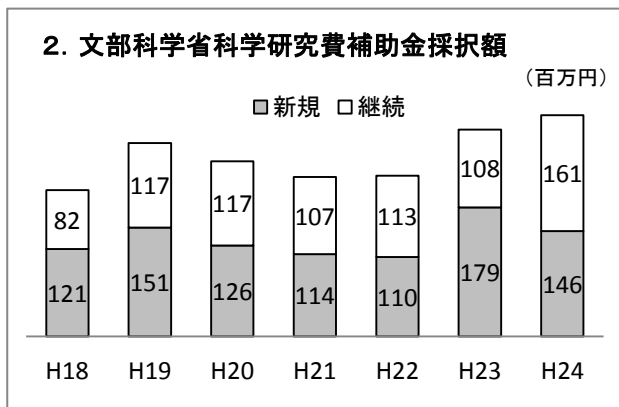
- 病床稼働率(対病床930床)について、平成24年度の実績は80.7% (中期計画93%) にとどまっているものの、平成22年度に手厚い看護と増収を目指し、10対1から7対1看護体制に移行している。平均在院日数では、13.02日 (中期計画15日) を達成しており、財務状況の改善に努めている。
〔7. 平均在院日数〕
〔8. 病床稼働率 (対定床) 〕
- 競争的外部資金の獲得に向け、文部科学省科学研究費補助金の採択件数・採択額ともに中期目標期間中に平成18年度比20%増を目指すとしており、採択件数・採択額ともに50%以上増加している。
〔2. 文部科学省科学研究費補助金採択額〕
〔3. 文部科学省科学研究費補助金採択件数〕
- 産学官連携推進センターを設置し、各種規程を整備するとともに、シーズ集を作成し、知的財産の有効活用に取り組んでいる。
- 専任化した附属病院長のもとに病院経営・運営会議を新設するなど体制整備を行い、附属病院の業務運営や経営を改善し、附属病院の収入確保に努めている。
- 診療報酬請求の適正化のため、診療報酬にかかる専門職員の登用、研修等実施によりスキルアップを図っている。また減点等の分析結果を各診療科に情報提供を行い、診療報酬改定のもと、新たな施設基準について、可能なものから届出を実施している。
〔診療5. 先進医療届出件数〕
- 毎年度の短期借入れにあたっては、借入期間や金融期間毎の利息利率等を考慮した運用を行っている。

【未達成又は達成が不十分な課題】

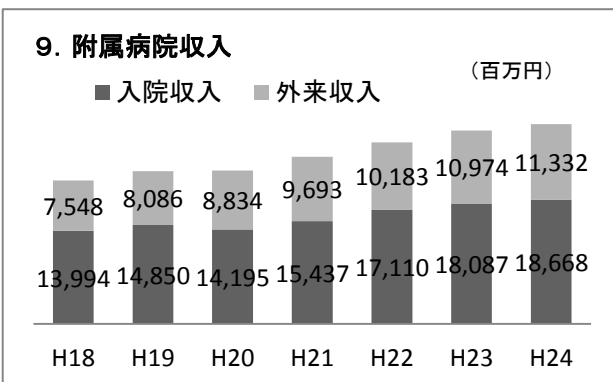
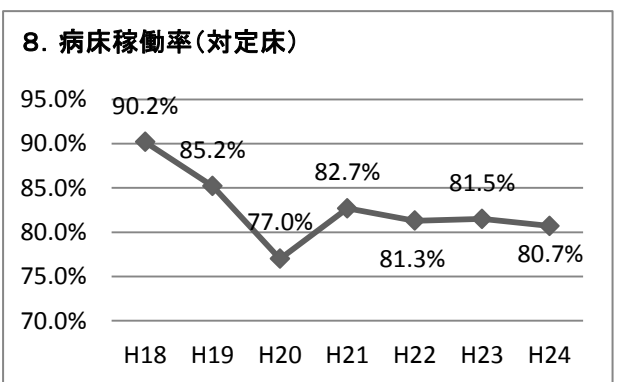
- 病床稼働率(対病床930床)については、平成24年度計画では、82%を目指すとしていたが、平成24年度末の実績では80.7%にとどまっている。
〔8. 病床稼働率 (対定床) 〕
- 医薬・診療材料費比率を41%までの削減を目指すために、平成21年度からSPDの全面稼働や、調達・供給・保管の一括管理を業者に委託するとともに、医薬品等の安価品目への切替等を積極的に実施しているものの、平成24年度の医薬・診療材料費比率は42.6%となっている。
〔10. 診療単価〕
〔11. 医薬・診療材料費比率〕

1. 費用・収入及び収支状況

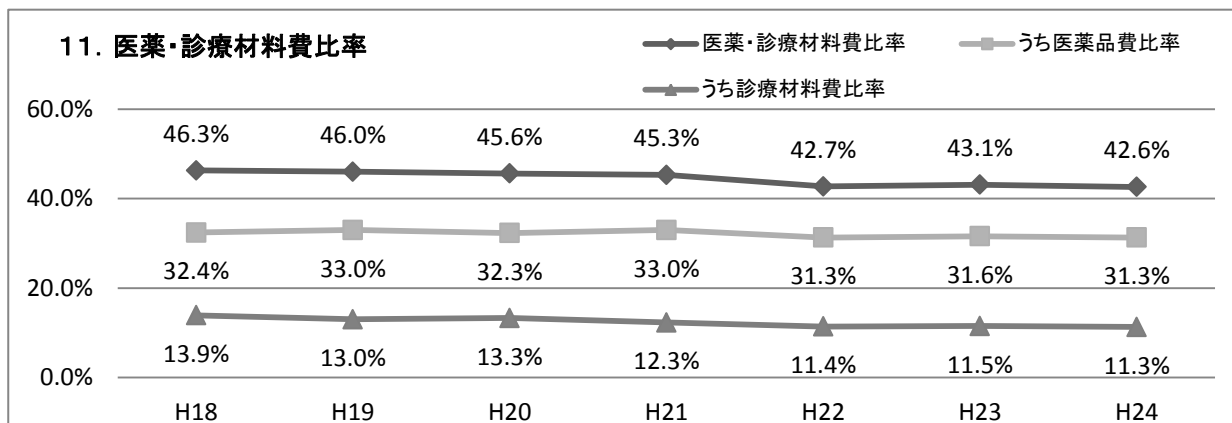
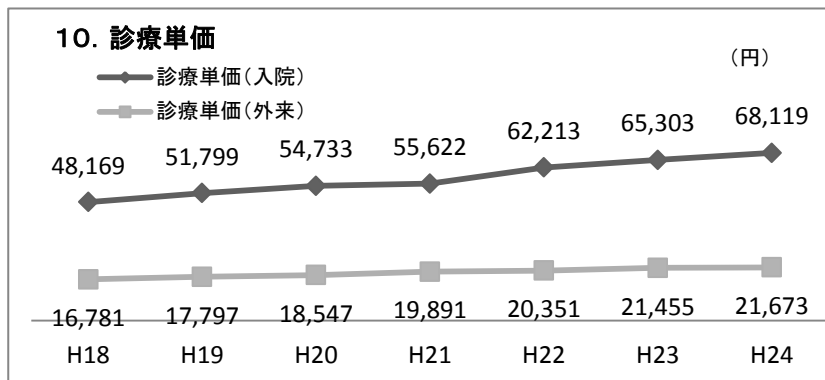




※各年度4月1日現在



項目別評価



IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置

【1 評価の充実 2 情報公開等の推進】

目標	<ul style="list-style-type: none"> 自己点検・評価を実施し、大学運営の改善等に活用し、継続的な質的向上の促進を図る。 教育・研究・診療活動や業務運営に関して積極的に情報を発信する。 	
年度評定	Ⅲ	中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる
中期評定	Ⅲ	中期目標の達成状況がおおむね良好である

【注目される取組(中期目標期間)】

○中期計画・年度計画の進捗状況や自己評価について、毎年度、役員会等へ報告するなど適切な進捗管理を実施している。また、病院の外部評価である「病院機能評価」を受審し、病院機能評価 (Ver6.0) の認定を受けている。

V 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置

目標	・長期的な展望のもとに整備計画を策定し、計画的な改修・改築等の整備に向けた取組を推進する。
年度 評定	IV 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

【注目される取組(平成24年度)】

○平成22年度に（仮称）中央手術棟の整備に着手し、第1期工事部分の基礎工事及び鉄骨建方工事が完了し、平成25年度中の第1期工事竣工に向けて着実に取り組まれている。また、教育研究部門の移転整備計画の策定に向けて取り組んでいる。

中期 評定	IV 中期目標の達成状況が良好である
----------	---------------------------

【注目される取組(中期目標期間)】

○平成22年度に（仮称）中央手術棟の整備に着手し、第1期工事部分の基礎工事及び鉄骨建方工事が完了し、平成25年度中の第1期工事竣工に向けて着実に取り組まれている。また、教育研究部門の移転整備計画の策定に向けて取り組んでいる。

VI 安全管理等に関する目標を達成するための措置

目標	・天災・人災等、不測の事態において、地域社会に貢献できる危機管理体制を整備・充実する。 ・良好な修学・療養環境づくりに努める。
年度 評定	IV 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

【注目される取組(平成24年度)】

○防火・防災管理協議会を設置し、大規模地震災害対策本部基本マニュアル等各種マニュアルを作成するとともに、マニュアルに基づいた図上訓練を実施するなど、危機管理体制の整備・充実に取り組んでいる。

中期 評定	IV 中期目標の達成状況が良好である
----------	---------------------------

【注目される取組(中期目標期間)】

○防火・防災管理協議会を設置し、大規模地震災害対策本部基本マニュアル等各種マニュアルを作成するとともに、マニュアルに基づいた図上訓練を実施するなど、危機管理体制の整備・充実に取り組んでいる。

○平成19年度中に敷地内全面禁煙を実施するとしていたが、平成20年4月から敷地内全面禁煙を実施している。

奈良県地方独立行政法人評価委員会 委員名簿

氏 名	役 職 等
今中 雄一	京都大学大学院医学研究科医療経済学分野教授
狭間 香代子	関西大学人間健康学部学部長
堀 正二	大阪府立成人病センター総長
矢島 洋子	三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)主任研究員
◎安田 國雄	奈良先端科学技術大学院大学名誉教授

